

令和 7 年度

## 「運営に関する計画」

大阪市立海老江東小学校

令和 7 年 4 月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校では、「子どもたちが毎日学校に来たい、教職員が働きたいと思えるウェルビーイングな学校をつくる」を学校経営の重点に据え、「1 安心できる居場所であること」「2 知的好奇心が満たされていること」「3 心身ともに健康であること」を実現できるよう、運営に関する計画において、全市共通目標である【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】を中心に令和 6 年度までの 7 年間取り組んだ。その結果、以下のような成果と課題が見られた。

**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 6 年度は、「心を育てる」を学校経営の重点に据え、道徳の時間を中心とした指導の工夫や「朝の会」「帰りの会」「学級活動」などでの互いのよさを認め交流しあう場の設定、児童会を中心としたあいさつ運動や異学年による集団活動の取組（スマイル班活動）など、自分や他人を大切にする感情を育成することに取り組んできた。また、いじめ対策委員会（生活指導連絡会）や校内支援会議を必要に応じて行い、事案の共通理解や見立て、役割分担などを明確にしながら、「チーム学校」として、学校全体で対応に当たってきた。これらのことにより、不登校の未然防止やいじめにつながる事案、いじめ問題の解消に成果が表れてきている。
- 課題としては、登校はしているものの、教室に入りにくい児童が複数名いることから、学級、学年だけでなく学校全体で、人権意識の向上や多様性を認めあえる学校風土の醸成に努めていく必要がある。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 本校では、この 5 年間、国語科を中心に「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「話す・書く」指導を中心に指導の工夫を全教員で行ってきた。またブロックで取り組みを進める家庭学習も継続して取り組んできた。これらの取り組みによって、小学校経年調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と最も肯定的に回答した児童の割合が、目標の 50% を達成した。
- また、3 年から 5 年については、国語・算数・社会・理科のすべての教科で大阪市平均を上回った。さらに、経年比較においても、国語および算数の平均正答率の対市比を同一母集団において経年的に比較したとき、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上した。
- 全国学力学習状況調査における平均正答率が全国平均の 7 割に満たない児童の割合が増加傾向にある。今後は、個別の学力の状況に応じた指導の工夫が必要である。また、複数の資料を読み取り、根拠を明らかにしながら自分の考えを発表しあうなど、自分で課題を見つける探究し解決する学習の機会を設定していく必要がある。
- 新校舎建設により令和 4 年 11 月から、運動場が 7 m × 30 m の狭さとなっていたが、業間や遊放時の体育館の割り当てを決め、運動に親しめる機会や環境づくりを推進するとともに、ふだんの体育授業でスポーツの楽しさに十分触れるような指導の工夫を行ってきたことで、「運動が好き」と回答する児童は、70.5% と目標を大幅に達成している。
- しかしながら、体力・運動能力調査では、男子は男子は 8 種目中 2 種目で全国平均および大阪市平均を、3 種目で大阪市平均を上回り、体力合計点でも大阪市平均を上回ったものの、昨年度の結果と比べて低下している。女子は女子は 8 種目中全ての種目で大阪市平

均・全国平均を下回った。運動場が十分に使えなかつたことが、児童の体力・運動能力に大きく影響していると考える。

●令和7年3月には、運動場が活用できるようになり、校庭に元気な子どもたちの声が響くようになってきた。今後は、体を十分に動かす運動の機会の設定や、友だちと交流したり協力したりする楽しさが味わえる体育授業の工夫・改善に取り組んでいく必要がある。

### 【学びをさせる教育環境の充実】

○登下校時の見守り活動やあいさつ運動、伝統文化のお話、火起こし体験など、地域人材や学識経験者人材の活用を図ってきたことで、地域と連携した児童の健全育成に努めることができた。今後も、地域と連携した教育活動の推進を進めていく。

○学習者用端末を効果的にかつ日常的に活用できるよう、実践してきたことで、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%を超えるなど、大きな成果を上げることができた。また、「デジタルドリル活用モデル校」として、デジタルドリルの有効活用にも努めてきたが、個別最適な学びの実現に向け、さらなる取り組みとその検証が必要である。

## 中期目標

### 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

#### （1）安全・安心な教育環境の実現

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

#### （2）豊かな心の育成

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。

### 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### （3）誰一人取り残さない学力の向上

- 令和7年度の本市独自調査の「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する小学6年生の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査（国語）における学力に課題の見られる児童の割合を21%以下にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査（算数）における学力に課題の見られる児童の割合を22%以下にする
- 「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成に毎週1時限以上授業として取り組む。

#### （4）健やかな体の育成

- 令和7年度の全国体力・運動能力等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を62.6%以上にする。

### 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

#### （5）教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の65%以上にする。
- 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合（%）[本市独自調査]」（基

準2)を84.9%以上にする。

#### (6) 生涯学習の支援

- 学校図書館貸出冊数(児童1人当たりの年間貸出冊数)(冊)[本市独自調査]を38冊以上にする。

### 2 中期目標の達成に向けた年度目標

#### 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

##### (1) 安全・安心な教育環境の実現

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(前年度:87%)

##### (2) 豊かな心の育成

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。(前年度:93.4%)

#### 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

##### (3) 誰一人取り残さない学力の向上

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(前年度:68.1%)
- 令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上減少させる。(前年度:4年20.0% 5年20.0% 6年19.3%)
- 令和7年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上減少させる。(前年度:4年16.4% 5年16.7% 6年15.8%)
- 「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成に毎週1時限以上授業として取り組む。

##### (4) 健やかな体の育成

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を62.6%以上にする。(前年度:62.1%)

#### 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

##### (5) 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の65%以上にする。(前年度:62.2%)

##### (6) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合(%)を90%以上にする。(前年度:90%)

##### (7) 生涯学習の支援

- 本市調査における、「学校図書館貸出冊数(児童1人当たりの年間貸出冊数)」を38冊以上にする。(前年度:25冊)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

|                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 評価基準 A : 目標を上回って達成した  | B : 目標どおりに達成した           |
| C : 取り組んだが目標を達成できなかった | D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標   | 達成状況   |      |      |
|--|--|------|------|
| <b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b>   |  |      |      |
| <b>(1) 安全・安全な教育環境の実現</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。 (前年度 : 87%)</li> </ul>  |  |      |      |
| <b>(2) 豊かな心の育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和 7 年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96% 以上にする。 (前年度 : 93. 4%)</li> </ul>   |  |      |      |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   |  |      |      |
| 取組内容   | 指標   | 目標値  | 進捗状況 |
| <b>【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめアンケートを（5 月、7 月、11 月、2 月）を行い、いじめ対策委員会を中心に校内の状況を全教職員で点検し共通理解するとともに、いじめと認められる事象について迅速かつ組織的に対応する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和 7 年度末の 4 回のいじめアンケートで、学校で認知したいじめの解消した割合</li> </ul>                      | 100% | A]   |
| <b>【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な活動の充実を図るとともに、様々な学習において地域人材を活用して、地域との連携をさらに深める。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和 7 年度末の学校アンケート（児童）で、「体験が勉強になった（できた。わかった。楽しかった）と思う」の肯定的な回答の割合</li> </ul> | 90%  | A    |
| <b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>   |  |      |      |
| <b>【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</b> <p>○指標に対する数値は 100% で目標値を達成できた。いじめアンケートや月 1 回のいじめ対策委員会を計画的に実行できた。いじめアンケートで認知できた件数は、5 月 35 件 7 月 40 件であった。アンケートをもとにして聞き取りを行い解決している。また、日頃から子どもたちの様子を見て、学年間で連携をし適宜指導をしている。今後アンケートは 11 月と 2 月を予定している。いじめ対策委員会で経過観察が必要な児童の児童理解に努め共通理解を図っていく。</p> |  |      |      |
| <b>【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b> <p>○学校アンケート「ゲストティーチャーによる体験学習は勉強になった」の肯定的な回答は学校全体で 96% と高数値であった。体験活動や社会見学、出前授業など様々な取り組みが行われている。今後も各教科を通じて継続し取り組みを行っていく。</p>   |  |      |      |

## 次年度への改善点

### 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

○いじめアンケートを行い、すべて聞き取りし問題解決しているといえるが、件数が5月より7月が増加している。日々の「心の天気」の活用や児童の実態を把握し、今後も引き続き児童理解に努める。

### 【基本的な方向2 豊かな心の育成】

○今後も学年の実態に合うように、様々な教科・領域においてできる体験活動や社会見学などを取り入れていく。

## 大阪市立海老江東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した  | B：目標どおりに達成した           |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標   | 達成状況 |
|--|------|
| <b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b><br><b>（4）誰一人取り残さない学力の向上</b> <ul style="list-style-type: none"><li>令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(前年度：68.1%)</li><li>令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上減少させる。(前年度：4年 20.0% 5年 20.0% 6年 19.3%)</li><li>令和7年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上減少させる。(前年度：4年 16.4% 5年 16.7% 6年 15.8%)</li><li>「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成に毎週1時限以上授業として取り組む。</li></ul> <b>（5）健やかな体の育成</b> <ul style="list-style-type: none"><li>令和7年度の小学校学力経年調査における「運(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を62.6%以上にする。(前年度：62.1%)</li></ul> |      |
| <b>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</b>  | 進捗状況 |

| 取組内容  | 指標   | 目標値  |   |
|---|--|------|---|
| <b>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（読解力育成）</b> <ul style="list-style-type: none"><li>「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成に毎週1時限以上授業として取り組み、自分の考えを整理し、さまざまに表現する機会を増やす。</li></ul> | ・令和7年度の校内アンケートにおける「自分の考えを整理し、表現できるようになったと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合 | 80%  | B |
| <b>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学</b>  | ・令和7年度の小学校学力経  | (前年度 |   |

|  |   |        |   |
|--|---|--------|---|
| 力の向上】(国語・算数)<br>・授業や短時間学習(モジュール)において、個別最適な学習ができるような取り組みを行う。  | 年調査における学力に課題の見られる児童の割合(%)<br>(国語・算数)  | より)-1% |   |
| 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(理科)<br>・課題に対し、既習内容や実体験をもとに予想を立て、実験や観察を進めていくことで、より理科を身近に感じることができるような工夫を行う。 | ・令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合                         | 80%    |   |
| 【基本的な方向5 健やかな体の育成】(体育)<br>・体育授業で運動の楽しさ(特性)に十分ふれるようにする。   | ・令和7年度の学校アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合 | 70%    | A |

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

#### 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(読解力育成)

○校内アンケートによる学校全体の肯定的回数の数値は78.3%。学年を経るにつれて、数値が低くなっていく傾向。(2年88.3%・6年55.5%)

文章などで表現できる児童は増えてきているが、人前での発表や自分の意見を説明することに関して自信が持てない児童が一定数いる現状にある。

#### 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(国語・算数)

○経年未実施のため、評価は未。2学期から実施している短時間学習(20分)の「かいとうタイム」を有効的に活用し、課題のみられる児童に対して細かい支援をおこなっている。当該学年の問題だけでなく既習学年に関しても復習できるように、デジタルドリルやプリントを用いて学習をおこなっている。一人ひとりの困り感を把握しながらきめ細やかな支援ができるように、引き続き学年間で連携していく。

#### 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(理科)

○経年未実施のため、評価は未。どの学年も、体験的な活動や実験結果を予想する活動を多く設定できるようにし、より興味を持って学習できるような取り組みを進めている。自分の考えやその理由について説明する力が身につくように、引き続き指導を続けていく。

#### 【基本的な方向5 健やかな体の育成】(体育)

○校内アンケートによる学校全体の肯定的回数の数値は89%。どの学年も75%以上と高数値。運動が好きな児童が多く、工事が終了した運動場でもたくさんの児童が遊んでいる姿が見られる。今後も体育の学習だけでなく、校内かけあしタイムなどを通して、より運動が楽しいと感じられるような取り組みを学校全体で進めていく。

### 次年度への改善点

#### 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(読解力育成)

○校内アンケートによる肯定的回数の数値が学年を経るにつれて、数値が低くなっていく傾向について(1年88.3%・6年55.5%)。

総合的な学習の時間だけでなく、日頃の授業からの積み重ねが必要。ペアやグループでの

活動を通して、一人ひとりが自分の意見に自信を持つことができるようになるとから始め、経験を積み重ねることで皆に自分の意見を伝えたいという思いを持つことができるよう、日々の授業づくりや教室環境を整える必要がある。

大阪市立海老江東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した  | B：目標どおりに達成した           |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況 |
|---|------|
| <p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>(6) 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の65%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]（前年度：62.2%）</li> </ul> <p><b>(7) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合（%）を90%以上にする。（前年度：90%）</li> </ul> <p><b>(8) 生涯学習の支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館貸出冊数（児童1人当たりの年間貸出冊数）（冊）[本市独自調査]を38冊以上にする。（前年度：25冊）</li> </ul> |      |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   |  |       | 進捗状況 |
|--|--|-------|------|
| 取組内容   | 指標   | 目標値   |      |
| <p><b>【基本的な方向6 教育DXの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教材の短時間学習や教科等での活用や日々の「心の天気」の活用、月1回以上の家庭学習の推進をする。</li> </ul>                                  | ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した年間授業日の割合                   | 65%以上 | C    |
| <p><b>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週1回のゆとりの日や月1回の定時退勤データの設定、学期に1回の校内環境改善に関する話し合いの機会を設けるなどを行い、働きやすい環境体制をつくる。</li> </ul> | ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合 | 90%以上 | A    |
| <p><b>【基本的な方向8 生涯学習の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一度に貸出しできる本の冊数を増やしたり、教科学習での活用を学期に1回程度行ったりして多くの本に触れる機会を増やす。</li> </ul>                            | ・学校図書館貸出冊数（児童1人当たりの年間貸出冊数）                             | 38冊以上 | C    |

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 【基本的な方向6 教育DXの推進】

○指標に対する数値は51.7%で目標値を下回った。（5～8月・4月は対象外）

- ・「心の天気」の活用は、学年によってばらつきがある。
- ・Navimaを中心とした学習アプリやタイピング練習アプリ、Canvaなど学年の実態に応じて学習者用端末を有効的に活用できている。また、月1回以上の家庭学習も計画的に実施できている。（navimaの活用が主に多い）

### 【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

○指標に対する数値は100%で目標値を達成している。（4～8月）

- ・週1回のゆとりの日や月1回の定時退勤デーの設定、学期に1回の校内環境改善に関する話し合いの機会を設けるなど働きやすい環境体制をつくることはできた。校内環境改善については意見が出たものに対してできるものから改善に向けて取り組んでいる。
- ・勤務時間自体は改善されているが、持ち帰り業務があつたり、「会議がない日=放課後の児童看護」となるので時間内に業務が終えなかつたりする。また、教科担任制になり教材研究・準備の負担は減ったが、担当教科によっては作業が増えているのが現状である。

### 【基本的な方向8 生涯学習の支援】

○指標に対する目標達成数値を考えると、4～8月までで15.8冊/人の貸し出し見込みが目標達成条件だが、現状13.9冊/人で目標数値を下回っている。

- ・一度に貸し出しできる冊数を増やしたり、図書館支援員による休み時間の図書室解放のお知らせや本の作り講座、図書の時間の読み聞かせを行ったり、多くの本に触れる機会を増やすことができた。しかし、学年により、本に触れる機会や貸し出されている冊数のばらつきが大きい。（特に高学年が少ない。しかし、読む内容量が多いものを借りている現状もある。）

## 次年度への改善点

### 【基本的な方向6 教育DXの推進】

- ・「心の天気」の入力は担任・副担任を中心に日々入力漏れの児童がいないように確認するとともに、心の変化の早期発見に引き続き努めたい。「心の天気」が入力できていない児童のメッセージ機能も活用しながら取り組んでいく。
- ・Chromebookになると、原則毎日持ち帰りになるので、家庭学習での機会も増やしていきたい。また、日々の学習の中でGoogleアプリも有効的に使えるようにする。

### 【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・時間内に業務を行えるよう、放課後の児童看護の日数の調整を行う。（例：定時退勤デーは放課後外遊びのみにするなど）

### 【基本的な方向8 生涯学習の支援】

- ・学校図書館や福島図書館を利用し、教科学習での活用を行い、多くの本に触れる機会を増やすようにする。
- ・定期的に貸し出し冊数を確認しながら、本を借りることができていない児童に声をかけ、より多くの児童が多くの本に触れる機会を増やすようにする。
- ・今後も、図書館司書さんと連携を取りながら本に触れる機会を増やすようにする。